



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

名

上場会社名 ヒロタグループホールディングス株式会社 上場取引所
コード番号 3346 URL <https://www.hirotaghd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠藤 隆史
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 濑山 剛 (TEL) 03(6281)4007

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	1,317	△28.1	△125	—	△129	—	△20	—
2025年3月期第3四半期	1,832	4.2	△256	—	△253	—	△266	—

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 △20百万円(-%) 2025年3月期第3四半期 △266百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	△0.78	—
2025年3月期第3四半期	△15.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	1,166	169	14.5
2025年3月期	1,270	189	14.9

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 169百万円 2025年3月期 189百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2026年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2026年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	1,777	△24.1	△27	—	△25	—	38	1.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 一社（社名） 、除外 1社（社名） 株式会社あわ家惣兵衛
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無
- (4) 発行済株式数（普通株式）
① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数（四半期累計）
- | | 2026年3月期3Q | 2025年3月期 | 2026年3月期3Q |
|---------------------|-------------|-------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 26,306,253株 | 26,306,253株 | |
| ② 期末自己株式数 | 117株 | 117株 | |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 26,306,136株 | 2025年3月期3Q | 17,585,136株 |

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は：無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 繼続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等の注記)	11
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）におけるわが国経済は、円安の想定以上の長期化に伴う物価上昇、海外景気の減速、人手不足の継続に加え、不安定な国際情勢や地政学リスクへの警戒感が継続していることから、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。当スイーツ業界におきましては、消費者の節約志向が継続する中、価格競争が一層激化しており、厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは収益率重視の経営方針のもと、不採算事業からの撤退と事業構造改革を推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高1,317,369千円（前年同期比28.1%減）、営業損失125,961千円（前年同期は256,369千円の営業損失）、経常損失129,577千円（前年同期は253,309千円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失20,484千円（前年同期は266,894千円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

なお、当社は当第3四半期連結会計期間において、連結子会社であった株式会社あわ家惣兵衛の全株式を譲渡したことにより、同社を連結の範囲から除外しております。これに伴い、関係会社株式売却益を特別利益に計上しております。

セグメント別の状況は、次のとおりです。

<スイーツ事業>

(洋菓子のヒロタ)

業務提携先との協業による製造特化体制への転換を完了し、商品開発や原価低減に注力した結果、収益構造の改善が着実に進んでおります。第2四半期に単月での黒字化を実現し、近年では最高水準の生産量を維持しております。また、販売管理費の大幅な削減により、売上高は前年同期を下回ったものの、営業損失は前年同期と比較して大幅に改善いたしました。

(トリアノン洋菓子店)

直営店舗につきましては、販売体制の強化と季節に合わせた商品開発を進め、集客率とリピート率の向上に取り組んでまいりました。主力OEM取引先との取引条件改善に向けた交渉を継続しており、一定の成果を得ております。第3四半期（10月～12月）は、クリスマス等の年末商戦による季節的要因により、単月黒字化を達成いたしました。今後も継続的な収益改善に向けて、より効率的な生産体制の構築を進めてまいります。原材料費や光熱費の高騰の影響が継続しており、売上高は前年同期を下回り、営業損失の改善にはいたりませんでした。

この結果、スイーツ事業におきましては、セグメント売上高は1,211,799千円（前年同期比28.1%減）、セグメント損失は89,368千円（前年同期は219,099千円のセグメント損失）となりました。

<美容ヘルスケア事業>

(MEX商事)

免税店向けを中心としたインバウンド需要に対応した販路開拓を進めており、第1四半期及び第2四半期は堅調に推移し、営業利益及び経常利益を確保してまいりました。しかしながら、11月以降、外部環境の変化により中国からの訪日観光客が大幅に減少したことから、第3四半期累計期間では、売上高、営業利益および経常利益は前年同期を下回る結果となりました。なお、この外部環境の変化は継続しており、現時点では回復の見通しが不透明な状況にあります。

この結果、美容ヘルスケア事業におきましては、セグメント売上高は105,569千円（前年同期比28.4%減）、セグメント利益は97,811千円（前年同期比27.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の末日現在における財政状態は、資産合計は、前連結会計年度末に比べ103,447千円減少し、1,166,580千円となりました。これは主に、流動資産において現金及び預金が136,134千円減少、棚卸資産が124,106千円増加、固定資産において敷金及び保証金が81,981千円減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ82,963千円減少し、997,368千円となりました。これは主に、流動負債において前受金が218,872千円増加、短期借入金が31,900千円減少、固定負債において長期借入金が124,100千円減少したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ20,484千円減少し、169,211千円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損失を20,484千円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2025年11月13日に公表いたしました「2026年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想の修正（下方修正）に関するお知らせ」及び、「2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）」の通期の業績予想に変更はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要な事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失357,816千円、親会社株主に帰属する当期純損失412,068千円を計上し、第三者割当増資により純資産は189,696千円となり債務超過は解消いたしましたが、当第3四半期連結累計期間において営業損失125,961千円、親会社株主に帰属する四半期純損失20,484千円を計上しております。

これらにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況を解消するためには、前連結会計年度より引き続き、従来の経営戦略を抜本的に見直し売上拡大による収益獲得でなく、利益を追求するために、聖域なき事業の見直しを行ってまいります。

具体的には当社グループの中核事業会社である洋菓子のヒロタについて、直営事業及び新規開発事業については、赤字からの脱却が見えないため早急の事業撤退を完了しております。卸売についても業務提携先との協業を通じて製造に特化することで、商品開発や原価低減に注力して既存事業の収益性の改善を図ってまいります。その結果、第2四半期以降、単月で黒字化する月もあり、業績の回復傾向が鮮明となるなど、構造改革の成果が現れております。

なお、現段階で改善するための対応策は以下のとおりです。

<スイーツ事業>

(洋菓子のヒロタ)

業務提携先との協業により製造に特化した体制を継続し、商品開発や原価低減に注力して既存事業の収益性の改善を図ってまいります。主力商品であるシュークリームの生産体制を安定させるとともに、生産量が目標水準を下回る日には、冷凍できる商品の製造を行うことで工場稼働の平準化を図り、固定費の効率的な吸収による収益性の向上を実現してまいります。適正な生産規模を維持しながら、安定的な黒字化体制の構築を進めてまいります。

(トリアノン洋菓子店)

直営店舗は、売上向上のための販売体制の強化とシーズンに合わせた商品開発を進め、年間を通して消費者の期待に応えられる品揃えを実現させ、店舗当たりの集客力とリピート率を高めてまいります。既存OEM取引先に対しては、高品質な製品供給を継続しながら、取引条件の改善を通じた収益性の向上を図ってまいります。

事業運営体制につきましては、品質の維持・向上を前提としながら、より効率的な生産体制の構築を進め、収益性の改善を図ってまいります。

<美容ヘルスケア事業>

(MEX商事)

免税店向けの販売を中心に展開し、インバウンド需要の拡大を確実に取り込み、マーケティングを強化することで、安定的な収益基盤の維持を図ります。2025年11月以降、外部環境の変化により中国からの訪日観光客が大幅に減少し、減収に転じておりますが、中国以外の国・地域からの観光客への販路拡大を通じて、早期の収益回復を目指してまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上にあり、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	369,526	233,392
売掛金及び契約資産	244,453	267,127
棚卸資産	115,764	239,870
その他	48,705	39,685
流动資産合計	778,450	780,076
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	30,515	17,224
機械装置及び運搬具（純額）	—	943
その他（純額）	6,934	1,165
土地	288,000	288,000
建設仮勘定	—	4,730
有形固定資産合計	325,449	312,063
無形固定資産		
その他	1,170	992
無形固定資産合計	1,170	992
投資その他の資産		
敷金及び保証金	140,921	58,940
その他	15,209	8,444
投資その他の資産合計	156,131	67,384
固定資産合計	482,750	380,440
繰延資産		
株式交付費	8,826	6,063
繰延資産合計	8,826	6,063
資産合計	1,270,027	1,166,580

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	148,879	164,554
短期借入金	45,900	14,000
1年内返済予定の長期借入金	46,540	40,440
リース債務	7,408	—
未払法人税等	14,246	1,230
未払金	106,617	57,890
未払費用	69,127	26,648
前受金	12	218,884
店舗閉鎖損失引当金	10,258	—
移転損失引当金	18,766	—
その他	15,992	10,100
流動負債合計	483,748	533,748
固定負債		
長期借入金	369,006	244,906
リース債務	1,927	—
繰延税金負債	58,561	60,254
資産除去債務	35,211	31,352
長期未払金	131,876	127,107
固定負債合計	596,582	463,620
負債合計	1,080,331	997,368
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,391,393	248,805
利益剰余金	△1,301,666	△179,562
自己株式	△30	△30
株主資本合計	189,696	169,211
純資産合計	189,696	169,211
負債純資産合計	1,270,027	1,166,580

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	1,832,779	1,317,369
売上原価	1,092,519	966,160
売上総利益	740,259	351,208
販売費及び一般管理費	996,629	477,169
営業損失 (△)	△256,369	△125,961
営業外収益		
受取利息	3	168
受取配当金	7	49
受取保険金	—	2,221
業務受託料	—	1,980
保険解約返戻金	8,555	—
その他	4,977	1,768
営業外収益合計	13,544	6,187
営業外費用		
支払利息	7,904	6,092
株式交付費	2,178	2,762
その他	400	948
営業外費用合計	10,483	9,804
経常損失 (△)	△253,309	△129,577
特別利益		
関係会社株式売却益	—	73,005
法人事業税還付金	—	21,342
資産除去債務戻入益	—	3,632
移転損失引当金戻入額	—	3,908
店舗閉鎖損失引当金戻入額	—	4,931
受取補償金	—	6,982
特別利益合計	—	113,802
特別損失		
店舗閉鎖損失	8,914	—
特別損失合計	8,914	—
税金等調整前四半期純損失 (△)	△262,223	△15,775
法人税、住民税及び事業税	4,662	2,021
法人税等調整額	8	2,687
法人税等合計	4,671	4,709
四半期純損失 (△)	△266,894	△20,484
親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△266,894	△20,484

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純損失(△)	△266,894	△20,484
四半期包括利益	△266,894	△20,484
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△266,894	△20,484

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において営業損失357,816千円、親会社株主に帰属する当期純損失412,068千円を計上し、第三者割当増資により純資産は189,696千円となり債務超過は解消いたしましたが、当第3四半期連結累計期間において営業損失125,961千円、親会社株主に帰属する四半期純損失20,484千円を計上しております。

これらにより、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような状況を解消するためには、前連結会計年度より引き続き、従来の経営戦略を抜本的に見直し売上拡大による収益獲得でなく、利益を追求するために、聖域なき事業の見直しを行ってまいります。

具体的には当社グループの中核事業会社である洋菓子のヒロタについて、直営事業及び新規開発事業については、赤字からの脱却が見えないため早急の事業撤退を完了しております。卸売についても業務提携先との協業を通じて製造に特化することで、商品開発や原価低減に注力して既存事業の収益性の改善を図ってまいります。その結果、第2四半期以降、単月で黒字化する月もあり、業績の回復傾向が鮮明となるなど、構造改革の成果が現れております。

なお、現段階で改善するための対応策は以下のとおりです。

<スイーツ事業>

(洋菓子のヒロタ)

業務提携先との協業により製造に特化した体制を継続し、商品開発や原価低減に注力して既存事業の収益性の改善を図ってまいります。主力商品であるシュークリームの生産体制を安定させるとともに、生産量が目標水準を下回る日には、冷凍できる商品の製造を行うことで工場稼働の平準化を図り、固定費の効率的な吸収による収益性の向上を実現してまいります。適正な生産規模を維持しながら、安定的な黒字化体制の構築を進めてまいります。

(トリアノン洋菓子店)

直営店舗は、売上向上のための販売体制の強化とシーズンに合わせた商品開発を進め、年間を通して消費者の期待に応えられる品揃えを実現させ、店舗当たりの集客力とリピート率を高めてまいります。既存OEM取引先に対しては、高品質な製品供給を継続しながら、取引条件の改善を通じた収益性の向上を図ってまいります。

事業運営体制につきましては、品質の維持・向上を前提としながら、より効率的な生産体制の構築を進め、収益性の改善を図ってまいります。

<美容ヘルスケア事業>

(MEX商事)

免税店向けの販売を中心に展開し、インバウンド需要の拡大を確実に取り込み、マーケティングを強化することで、安定的な収益基盤の維持を図ります。2025年11月以降、外部環境の変化により中国からの訪日観光客が大幅に減少し、減収に転じておりますが、中国以外の国・地域からの観光客への販路拡大を通じて、早期の収益回復を目指してまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対応策は実施途上にあり、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

株主資本の金額の著しい変動

当社は2025年6月27日開催の第26回定時株主総会決議により、2025年6月27日付で、会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金1,142,588千円を繰越利益剰余金に振り替え、欠損補填を実施しております。

(追加情報)

(表示方法の変更に関する注記)

(四半期連結貸借対照表)

前連結会計年度において、「流動負債」の「その他」に含めていた「前受金」は、金額的重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より独立掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」の「その他」に表示していた12千円は、「前受金」として組替えております。

(グループ通算制度の適用)

当社および連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、単体納税制度からグループ通算制度へ移行しております。

また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号2021年8月12日）にしたがって、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スイーツ事業	美容ヘルス ケア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,685,289	147,489	1,832,779	—	1,832,779
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,400	—	4,400	△4,400	—
計	1,689,689	147,489	1,837,179	△4,400	1,832,779
セグメント利益又は損失 (△)	△219,099	133,946	△85,152	△171,217	△256,369

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△171,217千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間内部売上高の調整額であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	スイーツ事業	美容ヘルス ケア事業			
売上高					
外部顧客への売上高	1,211,799	105,569	1,317,369	—	1,317,369
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,211,799	105,569	1,317,369	—	1,317,369
セグメント利益又は損失 (△)	△89,368	97,811	8,443	△134,404	△125,961

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△134,404千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間内部売上高の調整額であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	4,053千円	1,199千円

(重要な後発事象)

(固定資産の譲渡)

当社は、本日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社トリアノン洋菓子店の固定資産の譲渡について以下のとおり決議いたしました。株式会社トリアノン洋菓子店は、本日付で譲渡契約を締結し、2026年3月31日付で固定資産を譲渡する予定です。

1. 譲渡の理由

経営資源の有効活用及び財務体質の強化を図るため、以下の資産を譲渡することといたしました。

2. 譲渡資産の内容

資産の名称および所在地	現況
工場	
東京都三鷹市下連雀四丁目1番2号	
土地 333.45 m ²	工場・事務所
建物 977.70 m ² (延床面積)	

(注) 譲渡価額については、譲渡先との取り決めにより公表を差し控えさせていただきます。

3. 譲渡先の概要

譲渡先については、譲渡先との取り決めにより公表を差し控えさせていただきます。

なお、当該譲渡先と当社との間には特筆すべき資本関係、人的関係はなく、また当社の関連当事者には該当致しません。

4. 譲渡の日程

取締役会決議日 2026年2月13日

譲渡契約締結日 2026年2月13日

譲渡資産の引渡日 2026年3月31日 (予定)

5. 業績に与える影響

当該固定資産譲渡に伴い、2026年3月期第4四半期連結会計期間において、固定資産売却益約1.3億円を特別利益に計上する見込みです。